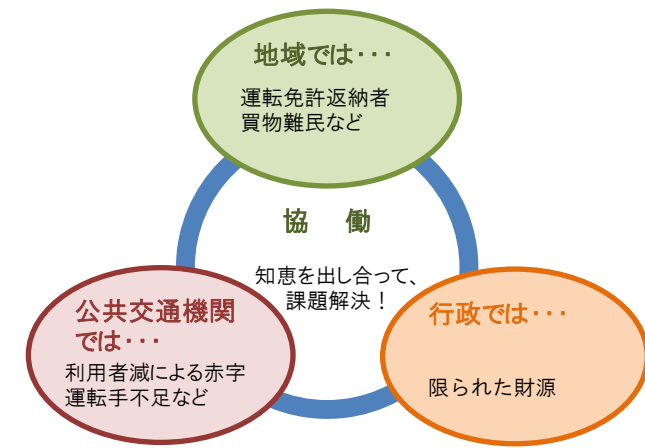
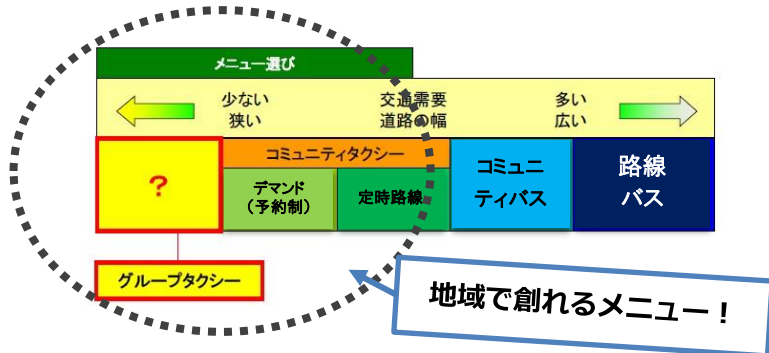


【公共交通を取り巻く課題。ともに取り組みましょう！】



【地域の話し合いで生まれたグループタクシー】



山口市の主な支援制度

- 相乗りするほどお得なグループタクシー利用券...65歳以上で最寄りの公共交通機関から1km(75歳以上700m)以上離れている方に距離に応じて300円、500円、700円の利用券を年間60枚交付
- 福祉タクシー利用券...障害者手帳をお持ちの方に300円の利用券を年間40枚または80枚交付
- おでかけサポートタクシー券...要支援・要介護認定を受けている方、介護予防・日常生活支援サービス事業対象者に300円の利用券を年間40枚交付(グループタクシー・福祉タクシー・おでかけサポートタクシー利用券の重複申請は不可)
- 福祉優待バス乗車証...70歳以上、市内の路線バスに限り一乗車100円
- サイクル・アンド・ライド、パーク・アンド・ライド(乗り換え専用の駐輪場・駐車場)
- ノーマイカーデー参加登録者への毎月第3金曜日のバス半額割引、協賛店舗での特典サービス
- バス停上屋設置の補助金
補助対象経費の2/3以内、
補助限度額70万円

詳細は、山口市
交通政策課まで
お問い合わせく
ださい！

創ろう！守ろう！みんなの公共交通 地域検討会 かわら版

嘉川・佐山 編
平成29年5月発行



～安心して住み続けられる
～交通まちづくりをめざして～

参加者アンケートより<29名回答>

Q地域検討会への参加により公共交通への理解が深まりましたか？

- ①深まった 20人
- ②どちらともいえない 1人
- ③深まらなかった 2人

Q公共交通を利用しようと思えますか？

- ①引き続き利用する 8人
- ②これからは利用する 5人
- ③わからない 14人
- ④利用しない 2人

Q公共交通を守る必要を感じましたか？

- ①感じた 23人
- ②どちらともいえない 5人
- ③感じない 1人

Q地域での話し合いの必要性を感じましたか？

- ①感じた 23人
- ②どちらともいえない 3人
- ③感じない 1人

【感想(抜粋)】

- 車の運転ができなくなった時のことを考えると不安
- JRの利用促進も重要であると思います。
- コミバス小郡まで乗り換えを考えてもらいたい
- 利便性をあまり追求すると、公共交通事業者のタクシー、バス、JRといった経営を難しくすることも考えねばならない。
- コミタクは利便性が大事、途中乗下車も可能とするべき。
- 路線バスは必要不可欠(特に佐山、嘉川～小郡方面)
- もっと一人ひとりが真剣に考えないと公共交通は消えてしまうと実感した。
- 市がここまで考えていたとは思いませんでした。私共も頑張ります。

今後に向けて地域の話し合いを応援します！
詳細は、交通政策課にご相談ください。協働推進課とも連携し、専門家のサポートも受けられるように調整します。

山口市では、市民が将来に不安を感じることなく、安心して生活できるよう、マイカーに頼り過ぎず、移動手段の軸足を公共交通へ転換していくために、まちづくりや地域づくりなど総合的な観点から山口市では「山口市市民交通計画」を平成19年に策定し取り組んできました。

その中で、交通弱者のためになんとかしたいという思いから、コミュニティタクシーの運営組織(小鯖・宮野・嘉川・小郡・秋穂・佐山・阿知須・島地)が立ち上がり、地域が主体となり、地域のニーズにあったコミュニティ交通が整えられました。また、更なる交通弱者への対策としてグループタクシー(相乗り)の仕組みも新設しました。あわせて、都市核、地域核間を結ぶバスや鉄道についても維持強化を図ってきたところです。

しかしながら、鉄道や路線バス等の利用者の減少や、運転手の不足により、路線の廃止や減便につながっている状況です。一方で、これからの高齢社会の中での運転免許返納者が増えるなか、ますます困る人が増えると推測されます。また、移動手段を持たない若者や通勤者にとっても、公共交通は移動手段として必要不可欠なものです。

この現状を打破し、「クルマがないと生活できない山口」から「クルマがなくても生活できる山口」に転換し、安心して住み続けられる、クルマに頼り過ぎない交通まちづくりを目指して、「第二次山口市市民交通計画」を平成29年度中に策定することとしています。

そこで、地域の皆さんに現状を理解していただくとともに、地域の事情やニーズをお伺いし、より良い交通のあり方について、一緒に考えていくため、市内を10ブロックに分けて、去る3月に地域検討会を開催しました。

3月8日(水)嘉川地域交流センターにおいて、32名の参加のもと、地域検討会を開催しました。最初に山口市市民交通計画についてご説明し、現状の課題をわちあひ、専門家の意見を頂き、課題を解決するアイデアを出し合いました。その概要をお伝えします。

この検討会を契機として、各地域の機運が高まり、それぞれの地域にあった地域公共交通を検討するための、二回目、三回目の勉強会につなげていきましょう。



■現状をわちあう！■

- 公共交通への不満
 - 電車せめて30分に1本
 - 宇部市営バス。1時間に1本では利用できない。
 - バス運行の増便。60分間隔→30分
 - バスの小型化
 - JR駅トイレの水洗化
 - JRとの接続時間を密にしてほしい
 - 嘉川駅トイレ汚い。周りも汚い
 - バス停の屋根無し、壁なし
 - 公共交通は収支を考えずに、行政として必要として考えて欲しい
- コミュニティタクシー
 - 小郡までいければ
 - コミタクと路線バスの停留所が遠い箇所がある
 - コミタクを中型にして欲しい
- グループタクシー
 - 高齢者は、700m~1,000mは歩けない。グループタクシーの規制緩和を弾力的運用を
- きっかけづくり
 - バスの乗り方を知らない子ども達も多い
- コミュニティバスの復活
 - 佐山から小郡までのコミバスの復活
 - 小郡~本由良間、朝夕にバス往復
 - 秋穂-阿知須間のバス。朝は良いが夕方秋穂へ行く便がない。
- やっぱり車がいい
 - 自家用車以外は無理



大阪大学教授 森栗茂一氏

■提言いろいろ■

鉄道も
コミタクも
買物便も
バスも
タクシーも
大事！

お出かけする人、元気な高齢者を増やす！

乗り換えの不安をどうするか皆で一緒に考えましょう！

駅のトイレを自分たちでつくった事例もある。

不安だから車にしがみついている
安心して車を手放せる仕組みを考えましょう！！

地域を越えたコミュニティタクシーがあったらいいな

小郡-嘉川-佐山-阿知須を一本化するコミタクを考える

小郡アルク、阿知須サンパークへ直通できるコミタクを

嘉川、佐山、阿知須の広域エリアのコミタクを

基幹駅(新山口駅)までルート延長

路線バスも

阿知須から「きらら道路」経由で小郡までのバスルート新設

コミタク提案

コミタクを区域運行にする

毎日運行することにより「あてになる」生活交通に

コミタクの回数を増やす

コミタク、場合によっては料金をあげる。

利用促進策

まちづくりの観点から公共交通の「外出目的」をつくる

自家用車で交通弱者を送迎するシステムを考える

～誰もが安心して暮らせるための交通まちづくり～

■公共交通は社会のインフラ

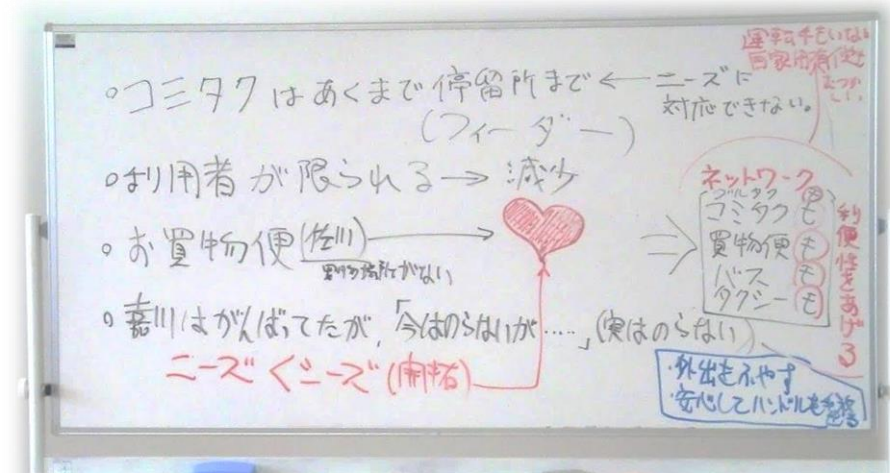
- 公共交通を考えることは、まちづくりを考えること
- 誰もが自分の意思で移動できるように(高齢者・子育て世代・高校生)

■集い歩くことが賑わいに

- 生活に必要な施設をつなぐ公共交通ネットワーク
- 多少の不便も「健康増進」と割り切る

■こどもの教育

- こどもの社会との関わりが増す



基幹交通(バス・鉄道)の利用促進の啓発！
地域ニーズの把握！
地域での話し合い！

みんなで創る
持続できる
地域の交通！

クルマがないと生活できない山口から
クルマがなくても生活できる山口へ

